

## これからの 地域社会のために

川崎市議会議員(中原区)

# いど清貴

きよたか

私たちが市議会議員の役割は、市民の代表として、市政の方針を決定したり、市政の運営を監視したりすることです。



### 令和7年第4回定例会のご報告

昨年の11月26日に開会した「令和7年第4回川崎市議会定例会」では、「指定管理者の選定」や「令和7年度川崎市一般会計補正予算」など、計44件の議案が提案されました。12月8日には、私が所属するみらい川崎市議会議員団による代表質問が行われ、続く12月17日からの4日間にわたり、各議員による一般質問が実施されました。慎重かつ活発な審議が重ねられた結果、全ての議案が原案どおり可決・決定されましたので、今号では代表質問および一般質問を中心に、その内容をご報告いたします。

### 代表質問ピックアップ

## 学校施設が浸水被害!?

### Q.学校施設の浸水対策について

**近**年の集中豪雨により、学校施設が浸水被害を受ける事例が発生しています。被害を最小限に抑えるためには、事前に誰が何を行うのかを明確にする「運用の明確化」が不可欠と考え、代表質問において、学校現場での役割分担や担当者の明確化が十分でない点を指摘しました。これに対し教育委員会からは、新たに浸水対策の手引きを作成し、学校防災対策指針を改定

することで役割分担や担当者を定め、学校施設と児童生徒の安全確保に取り組むとの答弁がありました。実効性ある運用が速やかに進むよう、今後も注視してまいります。



## トイレの男女別設置やバリアフリー化、乳幼児用設備の整備へと

### Q.多摩川河川敷のトイレ整備と安全対策について

**多**くの市民が利用する大切な公共空間である多摩川河川敷において、令和8年度から4年間で28棟のトイレ整備が計画されていることから、単なる老朽化対策にとどまらず、男女別設置やバリアフリー化、乳幼児用設備の整備など、機能拡充を同時に進める必要性を代表質問で訴えました。市からは、誰もが使いや

すい明るく快適なトイレを、効果の高いエリアから集中的に整備するとの答弁がありました。また、運動施設利用者の安全確保の観点から、トイレ整備に合わせたAED設置についても検討していくとの前向きな姿勢が示されました。今後も利便性と安全性の向上を求めて、防犯カメラの設置なども検討してまいります。

一般質問ピックアップ

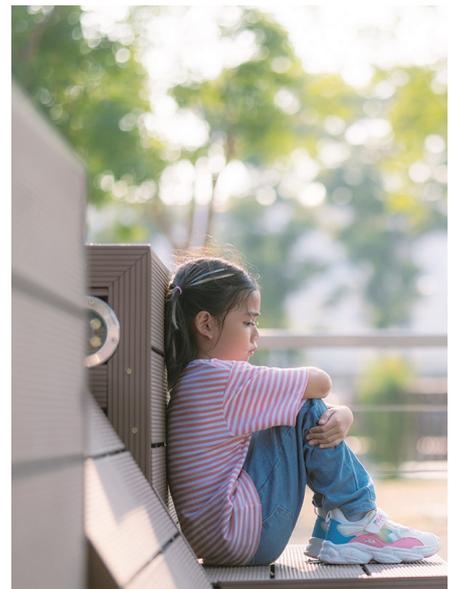
## 低学年児童のSOS発信

### Q.SOSをためらわせない相談体制へ

子どもが悩みや不安を抱えた際に利用できる「24時間子供SOS電話相談」と、低学年児童のSOS発信のあり方について質問しました。本市における子どもからの相談件数は近年増加傾向にあり、支援を必要とする子どもが確実に増加していることがうかがえます。こうした中、現在の相談電話は有料回線であることから、心理的・経済的に相談

をためらってしまうのではないかと課題を指摘しました。これに対し市からは、令和8年度からフリーダイヤル(無料)に統一する方針が示され、相談しやすい環境整備が進捗することとなりました。また、低学年の子どもは自分の置かれている状況に気づきにくいという課題に対し、発達段階に応じた分かりやすい動画の作成を検討するとの前向きな答弁がありました。さらに、教育委員会とこども未来局が連携し、啓発や支援体制を進めていく考えも示されています。今後も、子ど

もが悩みを一人で抱え込まず、安心してSOSを発信できる環境づくりを議会の立場から求めてまいります。



ました。今後は、現行法の範囲で可能な運用を積み重ねつつ、将来の本格的なデータ連携を見据えた検討を進めることが重要と考えます。

## 子どもや家庭の状況に合った支援

### Q.子どもの変化を見逃さない仕組みづくり

子どもや家庭の変化をできるだけ早期に把握し、必要な支援につなげていくための「こどもデータ連携実証事業」について質問しました。「第3期川崎市こども・若者の未来応援プラン」素案においても、教育・福祉・医療など関係機関が連携し、変化を丁寧に確認していく重要性が示されており、現在も会議や書面を通じた情報共有が行われていますが、より早期の把握には限界があります。そこで、従来の相談や見守りに加え、データ

を横断的に活用する可能性について質問しました。答弁では、データ連携は早期発見や多角的なアセスメントに有効であり、特に学校や地域で把握された情報を適切に活用することで、支援開始のタイミングが早まり、子どもや家庭の状況に合った支援につながる効果が期待できるとの認識も示されています。一方で、個人情報保護法上、国による法令解釈が十分に示されておらず、恒常的な連携を進める環境が整っていないことが課題とされ

乳 幼児期における母子相談体制の強化について質問しました。妊娠・出産から乳幼児期にかけては、育児や子どもの急な体調変化に対する不安が大きく、「今すぐ受診すべきか」「翌朝まで様子を見てよいのか」と判断

## 今すぐ受診か、判断を迷わせない

### Q.育児不安を支える24時間の相談体制

に迷う場面が少なくありません。こうした不安は日中よりも、医療機関や相談先が限られる夜間、休日の時間帯にこそ強く現れます。本市の相談実績や #7119 の利用状況からも、18時以降の夜間に相談が集中している実態が明らかとなっており、夜間・時間外の相談体制こそが保護者の不安を直接的に支える基盤であると改めて認識しました。私は横浜市を視察し、夜間を含めた切れ目のない相談体制が、育児不

安の軽減のみならず、産後うつや虐待の予防にもつながる重要な役割を果たしていることを実感しました。この点については、事前のやり取りの段階から、「時間帯を問わず相談できる環境整備が極めて重要である」との認識をこども未来局とも共有しており、答弁においても、夜間相談の重要性やオンライン等を活用した体制整備について、明確な認識が示されました。今後も、保護者が不安を一人で抱え込むことのないよう、実効性のある24時間相談体制の構築を粘り強く求めてまいります。



## 妊娠・出産期から子育て期まで

### Q.子育てアプリを“頼れる存在”へ

1月にリニューアルを控える「かわさき子育てアプリ」について質問しました。これまでの議論を通じ、子育て世代にとっては「必要ときに、必要な情報や支援につながること」が何より重要であると改めて感じています。現在、登録者数は増加していますが、日常的な

利用につなげていくことが今後の大きな課題です。今回の質疑では、利用者アンケートやヒアリングを踏まえ、妊娠・出産期から子育て期までを見据えた機能改善が進められていることが示されました。手続きやイベント情報をアプリから確認・申請できるようになることは、子育て

での負担軽減につながる大きな一歩です。また答弁では、リニューアル後も関係各局が連携し、SaaS(インターネット経由で利用するソフトウェア)の特性を生かしながら継続的に改善を重ねていく方針が示されました。子育てアプリは、完成形を目指すものではなく、利用者の声とともに改良を重ね育てていく仕組みです。今回のリニューアルを契機に、子育てに不安を感じている方々を支え、行政をより身近に感じてもらえるツールとなるよう、引き続き議会の立場から後押ししてまいります。

PROFILE

いど清貴(38歳)  
1987年11月20日生まれ、中原区下小田中在住  
拓殖大学卒業後、富士通グループに入社社員を経て  
2023年4月施行の第20回統一地方選挙  
中原区選挙区より挑戦、6,619票を獲得し初当選、  
2023年5月より川崎市議会議員  
会派：みらい川崎市議会議員団、文教委員会



詳しくは  
ホームページを  
ご覧ください

LINEからも対話できますので  
お気軽にご連絡ください。



LINE